

やっぱ、楽覚えちゃうんで。今のその頑張ってはる時つて、がむしやらにできるんでね

語り手 大捕風雅（高校七期生 市役所公務員）
聞き手 片桐渚紗

*

中高生時代

—どのような高校生活送っておられましたか。

もう、楽しかったです。楽しかった。いや、ほんまになんかちよつと、ある程度切ってもらった方がいいと思うんですけど（笑）。

—あはは。全然。喋ってください。

立守結構、なんかもう動物園状態みたいな感じでやって（笑）。みんな中高一貫で、みんな仲良くて、で、なんやろ。成績もそんなに変な成績取らんかったらちゃんと進学できてっていう。なんか今はかなり厳しいって聞いたんですけど。それが結構緩い上に、ある程度まあエスカレーターやったから、高校とかもこう、最後、みんな他の学校の子が受験してる時とかも、みんなは、まあって感じで。

—確かに。

みんな受験してんねんぞみたい。学年主任とかに怒られて、みたいなのをやってたけど、もうめっちゃくちゃ楽しい。中高でしたね。

—部活ではキャプテンをしておられた？

あ、そうですね。ハンドボールのキャプテンやらせてもらってました。

—その時のことで、何かこう印象に残ってることってありますか。

僕、多分LINEでちよろつとお話したかもしれないんですけど、メールか。中学は陸上で走り高跳びやって、一応県四位やったんですけど（笑）。でもどうしてもなんか高校でチームスポーツがしたくて、ちようど今、渡邊先生ってまだいはる？

—うーん。ちよつとわからないです。

あ、中学かな。中学の方が。めっちゃくちゃまあ、あとあとそのお話も出るけど、結構恩師というか。中学の授業なんかでハンドボールがあつて、それやってたら、その先生が、嘘かほんまか、お前のバネすごいから、入りたいやみたいな言われて、あ、ハンドボールやってたら、競技人口もそんなに、サッカーみたいに昔からやってるやつがいるとかじゃないから、高校からやろうと思つて、で、入つてっていうので。あと前田先生って、まだいはるかな。

—陸上部にいます。

そう前田先生が、自慢とかじゃないけど、前田先生に、あの高跳び、そんだけ飛ぶんやったら入ってくれて言われてたけど、ちよつとどうしてもチームスポーツしたくてっていうので、で、その顧問の渡邊先生にも、風雅お前いいのかと、前田先生が悲しんでたぞつて、それでも、ちよつとチームスポーツやらしてくださいっていうので、ハンドボールに入つて、で、初めはやっぱり、高校からやったので、中学もあつたんでね、高校からやってると、若干能力差、経験値が違つて、もう辞めたいとまではいかんけど、なかなか試合、一年目やし、他の人と差があるなみたいな感じやったけど、二年目、自分の代になつてから、スタメンで出れるようになって、そこで、顧問の先生からキャプテンやらへんかって言ってもらつて、じゃあぜひみたいな感じでキャプテンになつたっていう経緯ですね。はい。

―へえー、キャプテンやってたら、結構大変なこととかも。

初めはやっぱりチームの対外的なマナーというか、どこまでちゃんとやるかっていうのは、ある程度しつけるというか、自分が律しなあかんし、かつ、なんやろ、全くこう、試合とか緊張するタイプじゃなかったんですけど、もう引退試合、最後の引退試合だけは、めっちゃくちゃ緊張して、キャプテンやし、自分がチーム勝たせなみたいな、なんで全然もぅいいプレーができひんくて、めっちゃくちや、まあまあ負け、一点差とかで負けて、めっちゃ泣いて、で、なんか陸上はどうかわかんけど、引退のタイミングが二回あって。ここで引退するか、最後の試合、代が変わっても一応残って試合するかみたいな時に、一応こっちまで残って、そっちはもうキャプテンのプレッシャーがなかったから、結構いいプレーを我ながらできてんだけど、その当時はやっぱり重圧がありましたね。

―なるほど、チームやったら、そのチーム競技だからこそ何か大変だったこととかありましたか。

んー、まあそんな時は、僕らの代はそんなに人数も多くなかったんで、そんなにこう、揉めることなく、レギュラーとベンチとの間はある程度思うところあったのかなと思いつつ、なかなかチームはそんな、なんで俺が出れんねんみたいなやつもおらんかったし、そんなにこう、変な友達というか、変なチームではなかったんで、そんなに困ることはなかったかな。でも、ちよっとおっさんみたいなこと言うけど、卒業してとかなって尚更、あの時もつと頑張ってたらなつてのは、結構常々。

―そうなんですか。

学生時代の部活がやっぱり一番青春やなって僕は思ってるんで。結局終わってからじゃないと気づかないと思うんですけど、そこでもっと練習

しときやよかったなとかは結構ありましたねえ。ただ、今戻れたんやったらもうお金払ってでも嫌やなって(笑)。走ったり、ラントレとかもうすごかったなつて。あの時って、大人になってやらしい話やけど、お金ももらわずに自分のためにというかやってんのすごいなって改めて思いますね。顧問の先生もめっちゃ厳しくて。

―その時の部活のチームメイトとは今も交流あるんですか？

今も仲いいですね。僕はもう今地元でというか、大阪の市役所で勤めてるんですけど、みんな出ていっちゃうんで、東京とかに。会う機会がちよっと減っていくというか。うん、立守生というか、みんな社交性が高いから、まあまあいい企業に就職したりしたら、やっぱり本社が東京とかになるんで、結構、散り散りになって。学生の時ほど定期的に会うことはないけど、年一回とか、それこそ共通の友達達の結婚式とかであったりとか。未だに仲いいですね。

*

大学から現在

―じゃあ、ちよっと変わるんですけど、大学ではどんなことやられていましたか？

えっと大学は、産業社会学部のスポーツ社会専攻で入ってて、あんまり高校の時って、正直進路に全然何がいかかわらんかったし、今もあると思うけど、漢検取ったら何ポイントプラスとか、内部進学の中でも優先順位とか順位がつけられて、この学部やったら枠が何枠とかあるんですけど、初めはスポ健にちよっと行きたかった。スポーツ健康科学科か。けど、全然成績が足りんというか、人気やったんで、自分は成績真ん中ぐらいやったんですけど、そういう人気の学部って優秀な点数が高い人が行くから、やったら、同じスポーツ系行きたいなっていうの

で、社会学部のスポーツ社会専攻に行きました。スポーツ健康科学は科学を基にこうスポーツする、まあそのままやけど。けど、社会学部やから、スポーツの歴史とかそっちよりのことやってましたね。で、産業社会学部って専攻がいつぱいあって、複合してるんで。スポーツだけというよりは、色々受けたりとかな。

—へえー。その大学の中からもう今やられている職業に就きたいなみたいなことは思ってたんですか。

全くそんなことなくて。一応、中高保健体育の免許持ってるんです。

大学の時はもうその恩師に憧れて教師なりたくて。で、教育実習とかも来たんですけど、正直なんか先生の道しんどいとか。うん、色々多分ニユースとかでも聞くかなと思うんですけど、先生の待遇が悪いとか。それこそ学生さんに。そんなんいうのあれやけど。土日部活の顧問しても全然補助がないとか。そういうの色々聞いてたら、結構しんどそうやなっと思って。

教師にもなりたかったけど、そこで、一般企業に就職しようってなつて、一応二年銀行に。

—そうなんですか。

地方の銀行にいたんですけど、営業やってて、結構しんどくて。自分というのなんですけど、めちゃくちやポジティブな方で、全然あんまり何も、病んだりとかしいひんタイプなんですけど、それでもちよつとしんどなつて。今は市役所に転職して、五年目ですね。二年銀行の、今、五年目の市役所ですね。

—転職されたみたいな感じですか。

そうですね。

—今は市役所ではどういうことをやっておられるんですか。

今、市役所は、路整課っていつて、道路。ちよつと専門的になるんですけど、市民の土地と、例えば、道路は市役所が持つてるんですけど、その間、境界っていつて、こう、どこまでがあなたの土地、どこまでがうちの土地っていうのを、色々昔の図面とか見て協議するっていう、ちよつとややこしい、馴染みのないことなんですけど。僕も今年二年目で、全然馴染みなかったんですけど、なんか面白いというか、意外と、土地と道路って見るからに決まってるやんと思うんですけど、意外とその、法律上の線って決まってることなくて。それをもう一回決めるといふか、ある程度見た目でわかるけど、全然見た目と違ったりもするんですよ。民地なのに意外と民地がちよつと道路の中まで食い込んでるとか、そういうのをどこまでかっているのを判断する仕事してますね。

—へえ、結構忙しいですか。

めちゃくちや暇ですね。今の課は結構受動的な課なんです。申請者の市民が自分の土地を決めたいよつていう申請が来たら、じゃあ、うち官地っていうんですけど、市役所が持つてる土地の管理者として、立ち会いますよつていう立場なんで、あつちから申請がないと仕事がないんですよ。

営業職と違って、自分から仕事取りに行くとかないので、あくまで受動的な。

—来てくれたらやるみたいな。なるほど。それ、（申請）ない時はどういうことされてるんですか。

全くなくなることはないんで。はい、一件をできるだけ引き延ばして。細かく調査するとか。何回か同じ現場見に行くとかいう感じですね。前いた課が障害福祉課っていう障害者対応の課にいたんですけど。そこが激務の激務で。もう毎日二十三時まで残業とかして。

—えーすごい、そうなんですか。

障害者の人ってなんやろ。対応したら。もう障害者差別とかじゃなく、特性っていつて色々あって、話を通じひんかったりとか、毎日無言電話かけてくるとか、そういうのがあって。でも僕はその課は好きやったんですよ。なんか刺激があったというか。毎日イベントが起きるから。常に対応するのは嫌いじゃなかったんで、うん。ただ、パンクする人は結構いるんです。もうしんどくて、話にならんし、残業もあるしみたいな人もいるんですけど、僕は好きでしたね。ていうので、二年銀行、三年、その福祉課で、今年道路系の課（路政課）みたいな感じで、転職みたいな、市役所の中でも色々全くやってる業務が違うんで、転々としてっていう感じでですね。

—確かにそうですね。環境も結構変わりますか？

そうですね。上司とかもありますし、偉そうに言うつもりないんですけど、転職組が多くて。市役所って思ってるより。新卒の子ってあんま少なくて、初めから市役所ですっていう人よりは、僕らみたいなよその企業にいて、来る人が多いんで、企業から来てる人ってある程度絞られてるというか。僕も銀行時代、結構もう軍隊みたいに指導されて、みたいやったんで、ある程度こう育てられてきてるんですけど。

元から公務員の人って、なんか、ん？　って思うこと結構あって。でも今いる課とか前の課とかは人が良かったんで、全くこの人何やねんみたいな不満はなく五年は仕事してますね。

—市役所での仕事を通して、やりがいを感じることをありますか。

どっちかというと、それこそ福祉の時が多かったですね。福祉って何をするかっていったら、障害者の人が困ってますってなったらその人の生活、困ってることにサービスっていうのをあてがうっていう。サービ

スに行くのは、その民間の企業、民間のあれなんですけど、例えば、身体障害者の人が家に生活してて、自分で家事がなかなかできひんとかに、福祉サービスで、一割負担とか非課税もただで、その、ヘルパーっていうのあてがって、一日一時間とか、ヘルパーさんが来て、一緒に家事をするとか、そういうのを決定する立場みたいな感じなんで、ややこしいケースとかもあって、家庭的に複雑とか、あるんですけど、僕が担当してたケースで、お母さんと住んでる、おばちゃんぐらいの人なんですけど、結構メールが来るんですよ、僕に。家から出たいですとか、みたいなのをずっと僕に言ってきたり（笑）。一回一緒にドコモショップとか行ったんです。で、その人がやっぱり自立に向けて、お母さんと離れて生活するってなって、でまあ、それを僕が、なんか直接ね、手加えてるわけじゃないけど、その人が意外と、出てみたらすごい自立できて、一人でちゃんと生活できてるっていうのを、その業者の人とか相談員さんっていうのがいて、一緒に動いてた人に聞いて、なんかそれはすごいやりがいというか、ああよかったと思って、そういう、動くことですね、人生が新しくね、生まれるっていうのはいいなっていうのは思いましたね。立场上、市役所って難しいというか、第三者機関みたいな扱いなんで、現場で頑張ってるのは別の人らで、僕らはそれをね、補助するっていう感じなんで、やから公務員ってやりがい感じにくいって人多いんですよ。民間の企業に比べたら。けど僕はもうのびのびと、自分本位というかね、有給とかもめっちゃちゃんと取れるし、っていうので、気楽に働いてますね。

—銀行の時より良いなと思いますか？

銀行はやばかったですね。金曜家帰る時に、もう次月曜あの社長に会いに行かなとか、もうよぎったまま土日に入るんで、憂鬱な土日にな

るんですけど、市役所はもう金曜、休みやって帰って、で、月曜来てから、今日こんなことあったな、今日こういう現場かみたいなんを見るのは、だいぶ差ありますね。銀行は勉強にはなったんですけど、なかなかこう、自分を殺さなめかんといいか、偽りじゃないけど、お客さんのためとか建前を言ってるけど、やっぱり自分の利益のためにお金を売る、借りてくださってというのは営業かけながら結構しんどかったですね。お客さんと仲良くなっても、やっぱり利率の高い商品売ってこいってなるんで、そのジレンマがちよっと。公務員って建前なんですけど、楽そうっていうのもあるんですけど、公務員ってこうフェアに、何もお金とか損得なしに、対応できるっていうのはすごい魅力やなと思って、っていうのは面接で言いましたけど、綺麗なこと言う。〔笑〕銀行は勉強にはほんまになります。お金のこととか、二年でも営業マンとして、めちやくちやこう、研修とかもしつけられたんで、軍隊みたいな返事とか、椅子を引けとか、なんかもめちやくちやありましたね。面白かったですけどね。それも勉強にはなりますよね。成長といいか。

*

学生生活を振り返って

―高校生の時に自分になりたいなと思ってた人に近づいてると思いますか？

ははは。うーん難しいな。そんな時はほんまに、もう、わーって遊んでいたといいか。やってたから、なかなか将来のこととほんまに考えてなくて。正直、元から僕はどっちかつうと教師になりたかったんで、結構僕も人と関わる仕事好きなんで、営業マンとか多分やっても頑張れるんやろうなと思うんですけど、自分が今公務員っていうのは、高校の頃自分にしたら多分ありえへんってなってるでしょうけど、なんやかんや

ね、その場その場になるんやなっていう。僕も、家族すごい仲いいんですけど、そういう仕事とかに対する考えは固めとか古めで、銀行なんかしんどいわ、やめようって言った時に、母親とか、いや、そんなもったいないでみたいな、せつかく銀行入ってって言われて、それがムカついて、知らんやろと、僕しか働いてないのにしんどいんの知らんやろって思って、親とかには何も相談せずに、勝手に面接受けて、実は市役所受かってって。それ以外のことはすげえオープンな家なんですけど、なんかそういう、親だろうが、やっぱり自分のね、思いと、齟齬があったらイラッとするタイプなんで、イラッとして、行動でね示すタイプなんで、将来何になるかわかんないっていうのはほんまに。それこそ大学とかでね、色々学んで、そん中でこういうのもあるんや、いいなっていうのもありますし。あとは、現実的なことを言うよね、社会情勢といいか、公務員なんか多分昔ってあんまり人気なかったけど、コロナ禍でこう、民間企業がどんどん潰れていく中で、公務員って、人気になってるらしくて、そういうのもあるんでね、なかなか高校生の時は確かにこの仕事つきますって人って逆にすごいって、逆に珍しいと思うね。今からやと思いますね。

―確かにそうですよね。今高校生に戻ったらどういいうのやりたいとか。やつといいたらよかったっていうのはありますか。

人生においてあんま悔いはないタイプなんですけど、さっきお伝えしたみたいに、部活はもうちよつと頑張つとけばよかったとか。でもそれぐらいかな。

―今そういう大人になってわかった高校時代とか、学生時代の価値ってありますか。

やっぱり部活かなと。第一に。一番青春やなって。ほんまに何の対価

も貰わずに。あんだけ頑張るって、ほんまに貴重やと思いますね。大人になつたら打算的になつてこうね。損得勘定ではこれもらえるしやろうとか。これなんもらえへんやつたらやらんとこって、もちろんなる人も多いと思うんですけど。それがやっぱり部活ってね、あんなみんなとりあえずって言うて悪いけど、全員入って。特にスポーツ、運動系。僕も運動してたんでね、なんかこう、勝つためにやるってすごいことやなつて。そこが一番の価値やと思います。

—確かにそうですね。

で、未だにこうね、思い出す記憶としてね、部活はやっぱり大きいですよね。頑張る経験っていうのは結構ね。やっぱ、楽覚えちゃうんで。今のその頑張つてはる時って、がむしやらにできるんでね。さっきもね、お話ししましたが、大人になつてラントレやれって言われたら、お金もらつてもやらんわ、みたいな感じになるんですけど、今ね、今この時って無償でやってるから、すごいことやなつて思いますね。今しかできない。

—なるほど。長い間お話を聞かせていただいてありがとうございました。ありがとうございます。

【感想】

勉強よりも人間関係や挑戦する姿勢を大事にしてきたという話が特に心に残った。高校生活はがむしやらに頑張れる貴重な期間であり、大人になつてからはできないことにも、今なら全力で挑めるとい言葉に強く共感した。自分も今しかできない経験を大切にして、部活や学校行事、友人との関係づくりにもっと本気で向き合おうと思った。そして、将来社会に出た時に自分の糧となるような人間関係やコミュニケーション

ン力を今のうちから意識して育てていきたいと思った。

右..語り手 大捕 風雅さん
左..聞き手 片桐 渚紗

